

# 令和5年度全国学力・学習状況調査 結果の概要及び今後の取組

令和5年12月 丹波市立 青垣中学校

4月18日(火)に中学3年生を対象に、国語、数学、英語(話すこと調査は4月28日)の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査が実施されました。その結果を分析しましたので、概要についてお知らせします。学校と共に学習について考えていただく機会にしたいと思っています。

## 1) 調査の目的

- ◆義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図る。
- ◆調査全体の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ◆学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2) 学力調査から見える成果と課題 及び 改善の方向性 調査結果〔全国との正答率比較〕

【国語】全国平均をやや上回りました。

### 【成果と課題】

- ・「選択式」の設問は、正答率が全国平均と同程度であり、その中でも相手の話を受けて発した質問について、「述べ方の工夫」と「意図」を説明したものを選択するという設問は、全国平均を上回る結果となった。また、「短答形式」の設問では、「歴史的仮名遣い」の設問において正答率が全国平均を大きく上回った。さらに漢字を書く問題においても全国を上回り、言語に関する知識理解が定着している。→「話すこと・聞くこと」の能力が高まっている。学校全体で話法を活用し、相手に伝える取り組みが生かされている。→言語事項についての小テストは毎時間取り組んでおり、基礎学力の定着を図っている成果であると考えられる。
- ・ここ数年の傾向として無回答率は、全国平均より低い項目が多く、引き続き国語の調査に取り組む前向きな姿勢が見られる。→学校全体で「青中スタイル」という授業規律を意識し、誰もが分かる授業づくりや、安心して学び、落ち着いた姿勢で授業に取り組んでいる成果と考える。
- ・複雑な「選択式」の設問につまずく生徒が多かった。細部まできちんと読めば判断できる問題に誤答するものが多かった。
- ・二つの文章を比較して、読み取ったり、書いたりすることに課題が見られる。

### 【改善の方向性】

- ・条件作文を多く取り入れ、互いに採点し合ったり、推敲し合ったりする活動を取り入れる。
- ・書く機会を多く取り入れ、書いた文章を使って授業展開し、書くことの意義やおもしろさを豊かに体験させる。
- ・タブレットを用いて作文を書くことで、正しい文法や漢字を手軽に知ることができる。長文の下書きとしてタブレットを用いる授業を取り入れる。
- ・引き続き漢字の小テストを毎時間行う。
- ・語彙力を増やすため、会話から語句を調べたり、読書中に出てくる語句を調べたりする習慣を身につけさせる。
- ・条件作文を多く取り入れ、互いに採点し合ったり、推敲し合ったりする活動を取り入れる。



【数学】全国平均をやや下回りました。

### 【成果と課題】

- ・どの領域においても全国平均をやや下回っている。  
「数と式」-7% 「図形」-7.4% 「関数」-8.7% 「データの活用」-7.7%
- ・1の「自然数」の意味を正確に理解できていないところがあり、数学用語の意味が十分に身につけていない生徒が多い。
- ・筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由や判断した理由を説明する問題の正答率が低く、数学的な表現を使って説明したりする力は不足している生徒が多い。6(3) 32.5% (-8.4%) 7(2) 15% (-18.6%) 8(3) 32.5% (-10.3%) 9(2) 25% (-12%)
- ・誤答をしているパターンとしては、予想される間違い以外の間違いをしている生徒が多く、問題の意味が理解できていなかったり、何を答えるかがわかっていなかったり、どのように操作するかがわからなかったりする生徒が多い。

### 【改善の方向性】

- ・基本的内容の確実な定着が図れるよう、タブレットを使った自主学習や家庭学習の習慣化を図れるよう指導していく。
- ・主体的に考える力をつけるため、グループワークやミニティーチャーの活用など対話的で深い学びにつながる授業の工夫をしていきたい。また、話法を意識した発言の機会も多く持ち、生徒の学力の向上につなげたい。
- ・数学のことばを使って説明するという活動を取り入れ、言葉の意味を正しく理解して覚えたり、説明することに対するの苦手意識をなくしたり、道筋を考えて相手がわかるような説明をしたりすることができるように取り組んでいきたい。

## 【英語】全国平均をやや下回りました。

### 【成果と課題】

- ・どの領域においても全国平均をやや下回っている。  
「聞くこと」-13.0% 「読むこと」-9.1% 「書くこと」-12.9%
- ・17問中、無回答率が全国よりも高かったのは2問だけであり、うち1問は兵庫県よりは無回答率が低く、意欲が感じられる。
- ・「買い物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する」や「ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く」、「与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる」、「学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く」といった問題の正答率が著しく低く、会話文の内容理解や、自分の考えをまとまりのある文章で書く力が不足していることが分かる。
- ・「ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する」や「水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する」といった問題では、全国平均に近い正答率であり、聞く力が大きく不足している訳ではないことが分かる。

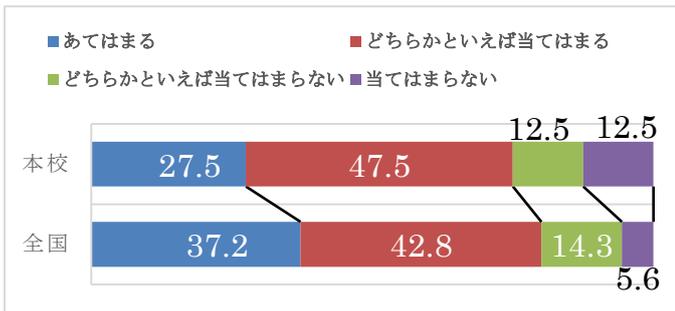
### 改善の方向性

- ・会話の流れを理解する力を高めるために、会話練習の時間を増やし、自分の考えを英語で表現する練習にもつなげていく。
- ・まとまりのある文章を書く力をつけるために、頻出単語の繰り返し練習や小テストを帯活動として取り入れ、また、作文の時間を積極的に設けて、構文などを使いこなせるようにしていく。
- ・環境問題など、さまざまな社会的課題について教科書を深く読み込むことで、生徒に自分の意見を持たせ、表現したいという意欲を育て、学力向上につなげていきたい。
- ・話す力をつけるために、「話すこと」「聞くこと」のパフォーマンステストを定期的実施する等、テストの中で英語を使ってやりとりすることに慣れさせる。その取組過程において生徒がALTに気軽に質問したりアドバイスを求めたりできるようにする等、ALTを有効に活用することで生徒の話すことに対する苦手意識の克服につなげていきたい。

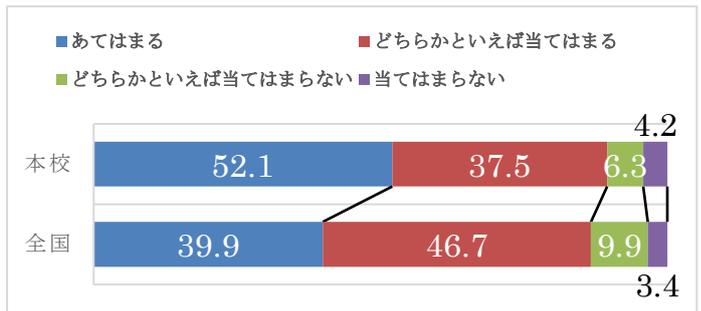
## 3) 生徒質問紙から見える成果と課題

### 自尊感情・自己有用感

#### ①自分には、よいところがあると思いますか。



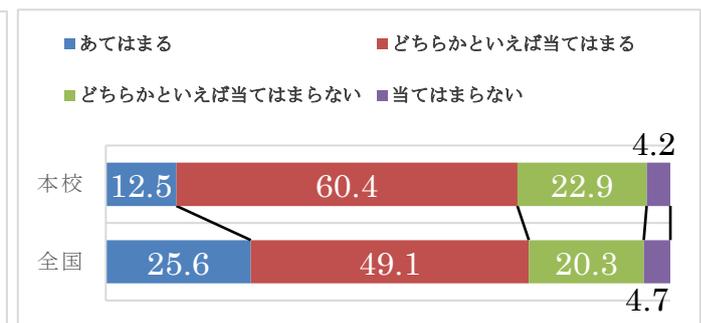
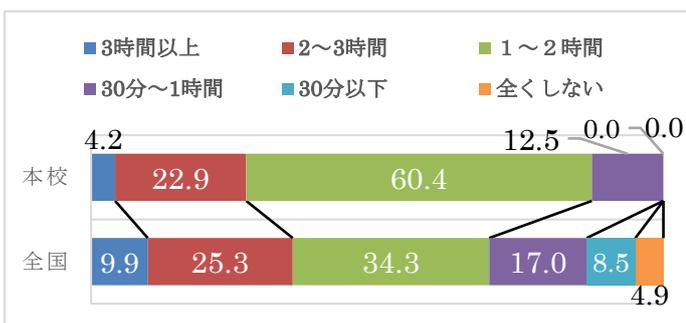
#### ②将来の夢や目標を持っていますか。



自分自身を肯定的にとらえている生徒や将来の夢や目標を持っている生徒は全国平均よりも多い。これはご家庭をはじめ地域や学校が、主体的に活動する生徒一人ひとりを応援し、しっかり支えているからであると思われます。自分のよいところを知り自信を持つことは、将来に夢や目標が持てることにつながります。日々の生活の中で、人と比べるのではなく、1人1人の成長やよいところを認めていくことが大切です。学校では今後もますますキャリア教育を充実させ、生徒の自立を支援してまいります。

### 学習習慣

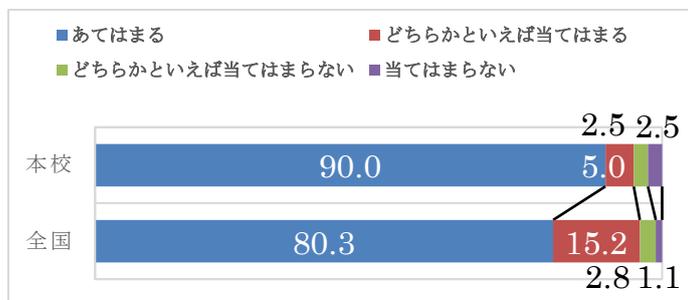
③学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。④先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思いますか。



家庭学習の時間は以前に比べれば増加傾向にあるが、これは礎チャレンジの取組の成果だと考える。ただし、ある程度時間をかけしっかりと取り組めている者の割合が平均値を下回っており、これが上位層が少ない要因の一つと考えられる。また、授業が家庭学習につながるような内容になっているかを再度考察すべきである。学校での学習は積極的に取り組んでいますが、家庭学習の状況には課題があります。各家庭においても、学習環境を整えることやスマホ・ゲーム等の使用ルールの作成など、学習に向かう子どもたちの支援をお願いします。

### 生活習慣・規範意識・地域連携

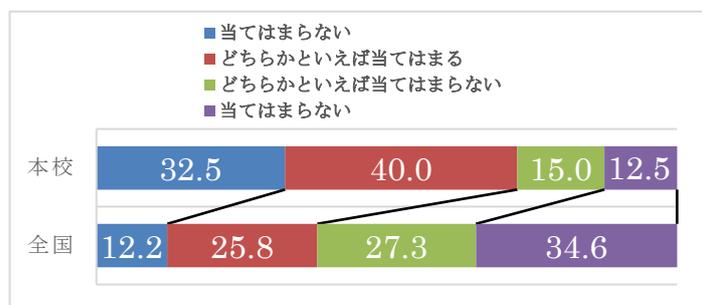
#### ⑥友達関係に満足していますか。



#### ⑥いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。



#### ⑦今住んでいる地域の行事に参加していますか。



多くの生徒は友達と協力して楽しく学校生活を送っていると考えられます。自尊感情の育成についてはおおむね良好であり、地域でのボランティア活動や学習支援サポーターの活用など小学校からCSとして地域の多くの方々との交流の効果が出ているように思う。今後もそう思える生徒をさらに増やしていけるように、またいじめは絶対に許さないなど、多様な価値を認め自他ともに大切にする人権教育を進めるとともに、生徒中心の学校づくりを進めます。今後も地域とともにある学校づくりを進めてまいります。